

1 日 時 平成24年10月11日(木) 5時限目

2 単元名 一人一人の心がけが未来を変える～4年2組GOMIプロジェクトついに始動！～

3 単元目標

- ・豊橋市で行われているごみの処理と利用に関心を持ち、意欲的に調べたり、見学したりするとともに、地域社会の一員として、ごみの減量に向けて努力しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ごみの処理と利用の現状を知り、ごみの減量に向けて自分たちにできることを考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・ごみの処理と利用の様子を、見学したり、資料を活用したりしながら具体的に調べ、そこに従事する人々の働きや自分たちの生活とのかかわりを絵や文でまとめることができる。(観察・資料活用の技能)
- ・ごみの処理と利用には法やきまり、そして人々の協力が必要であることを理解することができる。(知識・理解)

4 単元設定の理由

総合的な学習「ぼくら、大清水環境調査隊」の単元において、子どもたちは、校区のごみ調べ探検を通して、大清水校区に落ちているごみの種類やごみが多く捨てられている場所に興味をもった。調査活動のまとめでは、たばこやペットボトルなどがばい捨てされていることに対して、憤りや驚きの思いを発表し、事実に対する自分の思いを表現することができた。また、目に見える場所にごみが少ないのは、校区に住む人の協力のおかげであるということに気づき、「校区のごみ拾いをしたい」や「ばい捨てをしないように呼びかける看板作りをしたい」など、捨てられるごみに対して、自分たちにできることは何か考えてきた。しかし、その一方で、毎日の生活の中で、給食の残食が出たり、持ち主のわからない落し物が出たりなど、子どもたちは余分なごみを多く出している。また、100円ショップやカップラーメンなど、自分たちの生活を便利にしているものが、実は大きなごみ問題につながっているということに気づいている子は少ないと思われる。そこで、本単元では、普段、自分たちが生活する学校、家庭、地域で、ごみに関する調査活動や体験活動を行い、そこで得られた気づきや思いを4年2組全員で交流し合う。活動や意見交流を通して、今の時代、生きていけば必ず出てしまうごみとのかかわり方を考え、ごみを減らして生活する意識を高めていきたい。

本単元では、ごみの分別の必要性、ごみの処理過程、資源ごみの再利用などについて学習する。そして、ごみの処理と利用には、人々の協力が必要であることや問題点が多く存在していることについて知ることができる。毎日の生活の中でごみを出す人間として、ごみの減量に向けて自分たちにできることは何かを考えることをねらいとしている。

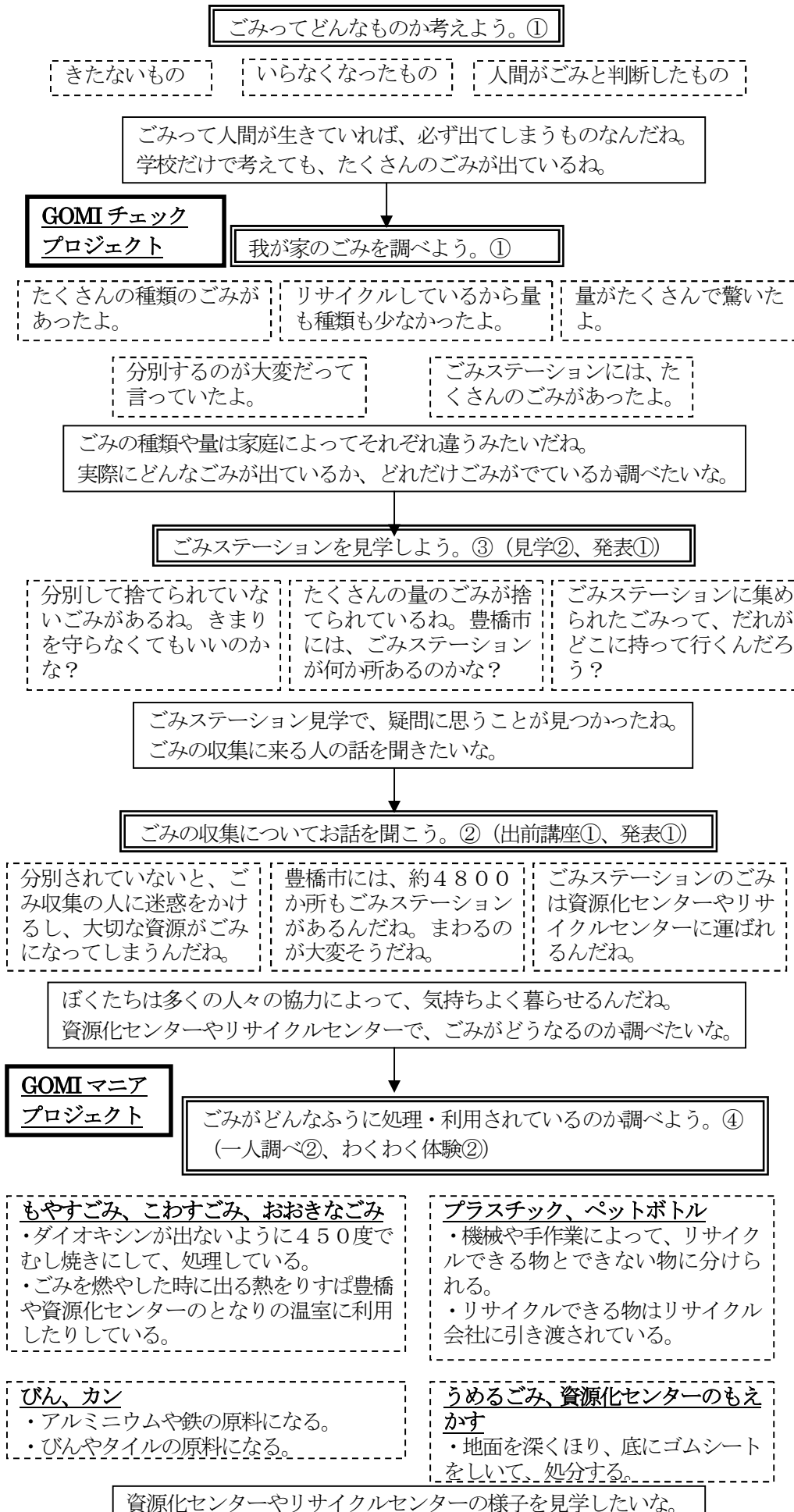
ごみの処理と利用は、子どもたちにとって生活に密着した社会問題である。そして、ごみは直接目で見たり、追いかけてたりできる身近な対象であるので、五感を重視した調査活動や体験活動を行うには最適な教材である。4年生は、10月にいきいき体験活動で、豊橋市の資源化センターを見学する。市内全てのごみが集められ、24時間休むことなく、ごみを燃やしたり、資源を取り出したりしている様子を目にすることで、子どもたちはごみの処理や利用に対する興味・関心をいっそう高めるであろう。市内で出るごみの量に驚いたり、市や企業のごみを減らす努力を知ったりする中で、進んで調べ学習を行ったり、ごみとのかかわり方について意識を高めたりすることができると思う。

指導に当たっては、「ごみを出す人間として、ごみとどうかかわっていったらいいのか」を、単元を貫く課題とし、子どもたちが意欲をもって取り組めるよう、「GOMI プロジェクト」と名付けた活動を展開していく。各プロジェクトにおいて、自分たちの力で疑問を解決できるよう、資料の充実を図ったり、実際にごみを減らす活動を行ったりする。副読本「わたしたちと環境」や「これはたいへん！ごみの話」などのごみに関わる書籍を用意し、自ら進んで学べる環境作りに努める。ごみを減らす活動では、今後のごみとのかかわり方について考えを持てるよう、メモ帳作りやコンポスト作りなどのリサイクル体験を行う。

そして、ごみに対する自分の意見を深めたり、変容させたりするため、他の子どもたちの意見を意識して、話し合いに参加するように促す。振り返りでは、接続語を使って、話型を決めて書くように指示し、調べた事実に対して、分かったことだけではなく、自分なりの思いや考えをまとめることができるようにしていく。さらに、朱書きや対話などを通して、子どもたちの思いや考えをとらえ、追究を支えていくことができるようにする。

本単元を通して、日常生活において、ごみを分別したり、必要なものだけを買ったり、ものを大切に使うなど、ごみの減量に向けて、ごみとのかかわり方を意識した生活を送ってほしいと願っている。

5 単元構想図（17時間完了）



☆出されるごみの量の多さに関心をもつことができるようにするために、学級で出たごみの量から学校全体で出されるごみの量を想起させる。

☆家庭で出るごみの種類や量に気づかせるために、3日間、家庭でのごみを調査するように指示する。

☆曜日によって、出されるごみの種類が違うことに気づけるよう、見学の日を2日設定する。
☆ごみの処理と利用に従事する人の努力に気づくことができるようにするために、ごみ処理に従事する人との出会いの場を設定する。

☆問題意識をもって聞き取り調査ができるようにするために、前時の疑問を整理したワークシートを用意する。

☆資源化センターやリサイクルセンターでの見学の視点をもつことができるようにするために、それらの施設の仕組みや役割について調べる時間を設定する。

☆児童自らが調べ学習に取り組めるようにするために、ごみに関わる書籍などを教室に常置しておく。

見学を通して、気づいたことやわかったことを発表しよう。②（まとめ①、話し合い①）

豊橋市内だけでも、たくさんのごみが出ているね。量の多さに驚いたよ。

資源化センターでは、たくさんのごみを燃やすことができるよ。ごみがどれだけでも大丈夫だね。

リサイクルセンターがあれば、ペットボトルがごみになることはないね。

☆見学や聞き取った事実をもとに話し合いに参加できるようにするために、見学時に撮影した施設の写真を掲示しておく。

資源化センターやリサイクルセンターがあれば、ごみが出て大丈夫かな？

大丈夫

- ・ごみを燃やしても、有害なガスが出ないから、地球に悪影響はないよ。
- ・灰までコンクリートの原料になる日本のリサイクル技術があれば大丈夫だよ。
- ・埋め立て地にくるごみの量は減っているから大丈夫だよ。

大丈夫ではない

- ・ごみの処理には、多くの費用がかかって大変だよ。
- ・埋め立て地は2027年になくなる可能性があるみたいだよ。
- ・何でもごみにしていたら、もったいないよ。資源化センターでも、ごみを減らすように言っていたよ。

☆ごみ問題は現代社会が抱える問題であることに気づけるようにするために、江戸時代のごみ事情を紹介する。

ごみの処理と利用には、優れた点もあるけど、問題点がたくさんだね。ごみを減らす必要があるね。でも、なぜごみは増えたのだろうか？

☆ごみ問題に切実感をもつことができるようにするために、将来起こり得る問題や海外のごみ問題を知らせる。

GOMI サミットプロジェクト

なぜごみは増えてしまったのか考えよう。②
（一人調べ①、話し合い①）（本時2/2）

- ・コンビニやスーパーの袋がごみになっている。
- ・カップラーメンやコンビニ弁当の容器は全部ごみになる。
- ・ウエットティッシュみたいに使い捨てのものがごみになっている。

- ・プレゼントの包みがごみになる。
- ・着ない服や使わなくなったものをすぐに捨ててしまう。
- ・給食を残す人がいる。
- ・ゲームやおもちゃがたくさんある。
- ・100円ショップで何でも買える。

☆現代のごみが増えた理由について、具体的な意見を持てるよう、祖父母や父母に過去のごみ事情についてインタビューする活動を仕組む。

わたしたちはごみを減らせるのかな？

減らせる。

- ・よく考えてものを買うようにすれば、ごみを減らせるよ。
- ・給食を残さないように、好ききらいをなくすようにする。
- ・スーパーで袋をもらわないようにマイバックを持って行けば、ごみを減らすことができるよ。

減らすのは難しい。

- ・カップラーメンやコンビニ弁当など、便利な生活になってしまっているよ。
- ・好ききらいは簡単には直せないから、残食は出てしまうよ。
- ・ものを買えば、包装紙などのごみがどうしてもついてくるよ。

☆これまでの考えを問い直させるために、「今の便利で豊かな生活をめけだせるのかな」と切り返す。

ごみを減らすには、一人一人の心がけが大切だね。みんなで協力していきたいね。

GOMI エットプロジェクト

ごみを減らしてみよう！リサイクルにチャレンジ！②
（体験①、発表①）

いらなくなった紙でメモ帳を作ったよ。簡単にできるから、これから続けたいな。家でもやってみたいな。

牛乳パックで、はがきを作ったよ。時間がかかって大変だったよ。きれいな紙にするのはむずかしいね。

コンポストで生ごみを堆肥にしたよ。コンポストを使うのも良いけど、好ききらいなく、残さず食べることが大切だね。

☆自分たちも「ごみの減量に向けて何かやってみたい」という意欲を高めるため、国・市・企業のごみ対策を知らせる。

ごみを減らすことを意識して、自分たちにできることをやってみよう。

6 本時の学習

(1) 目標

- ・ごみの増量の原因を現代の生活の様子と関連付けて考え、ごみの減量には、人々の協力が必要であると気づくことができる。(知識・理解)
- ・「ごみの減量」の可能性について、根拠をもって自分の考えを発表することができる。(思考・判断・表現)

(2) 準備

教師：ごみ山の写真

(3) 学習過程

時間	予想される学習活動	☆支援 ◎評価
	なぜごみは増えたのだろう？ ・コンビニやスーパーの袋がごみになっている。 ・カップラーメンやコンビニ弁当の容器は全部ごみになる。 ・ウェットティッシュみたいに使い捨てのものがごみになっている。 ・マクドナルドのようなファーストフード店ができた。 ・プレゼントの包みがごみになる。 ・着ない服や使わなくなったものをすぐに捨ててしまう。 ・給食を残す人がいる。 ・ゲームやおもちゃがたくさんある。 ・100円ショップで何でも買える。	☆自分たちの便利で豊かな生活がごみの問題につながっていることに気づかせるため、昔の生活の様子と比較する。 ◎ごみが増えた理由について理解を深めることができたか。 (発言・ノート)
15	わたしたちはごみを減らせるのかな？ 減らせる。 ・よく考えてものを買うようにすれば、ごみは減らせるよ。 ・ウェットティッシュじゃなくてタオルを使えばごみにならないよ。 ・給食を残さないように、好ききらいをなくすようにする。 ・スーパーで袋をもらわないようにマイバックを持って行けば、ごみを減らすことができるよ。 ・服やゲームは、いらなくなったら、売れば良いよ。 減らすのは難しい。 ・100円ショップは便利だから、きつと使っちゃうよ。 ・タオルは洗うのが面倒だから、ウェットティッシュを使ってしまうと思うよ。 ・好ききらいは簡単には直せないから、残食は出てしまうよ。 ・カップラーメンやコンビニ弁当など、便利な生活になれてしまっているよ。 ・ものを買えば、包装紙などのごみがどうしてもついてくるよ。	☆自分たちの便利で豊かな生活を見直す中心課題を引き出すため、背面黑板から、ごみを減らす必要があることを想起させる。 ☆これまでの考えを問い直させるために、「今の便利で豊かな生活をめけだせるのかな」と切り返す。
40		◎「ごみの減量」という可能性に対して、自分の考えを深めることができたか。
45	「ごみを減らすには、一人一人の心がけが大切だね。」 「みんなで協力していきたいね。」	◎「ごみの減量」という可能性に対して、自分の考えを深めることができたか。 (発言・ノート)

(4) 評価

- ・生活の便利さや豊かさがごみの増量の原因であることを知り、ごみの減量には一人一人の努力が大切であることを理解することができたか。(発言・ノート)
- ・「ごみの減量」の可能性に対して、具体例を挙げて自分の考えを発表することができたか。(発言・ノート)